

農村生態系保全における課題 —現場の視点から—  
Issues on Rural Ecosystem Conservation — From the Viewpoint of the Site —

鈴木正貴

SUZUKI Masaki

1. はじめに 2001年に土地改良法が改正され、農業農村整備事業では原則として環境との調和に配慮することが謳われた。それからおよそ10年が経過し、農村生態系の保全を目的とした様々な工法や手法が全国で試みられるようになった。しかしながら、農業農村整備事業によって農業従事者が得る恩恵と、農村に生息・生育する動植物の保全とを高いレベルで両立することは容易ではなく、現在もその試行は続いている。そこで、本報では、筆者のこれまでの経験をもとに、現場における農村生態系保全の課題について提示し、一部の課題については、実際に行われている対策の事例を紹介する。

2. 時系列による課題の整理 施工前と施工中、および施工後の3つの時期に大別し、以下に、これら大別された時期において生じた課題を提示する。

2-1. 施工前における課題 1) 遅い段階で行われる動植物の調査：一般に、事業対象地区における動植物の調査は事業採択後に実施される(図1)。しかしながら、他方で有識者を交えた協議は事業採択前に実施されることが多く、現地に生息・生育する動植物のデータを十分に得られない状況で保全策が議論される。そのため、議論された内容は、地域の生態系の現状に即した保全策とはならない。さらに、動植物の調査と並行して実施設計が行われることから、調査結果が出揃った頃には、その結果を活かした保全工法や手法を導入する余地が図面上に残されていない場合が多い。2) 関係者間の不十分な合意形成：一つの事例として、頭首工の魚道の改修・新設の計画においては、漁業関係者や利水者など思いの異なる関係者が多数存在していながら、特定の関係者の意見のみが用いられることがある。このような事態を避けるために実施された取組みとして、図2のように、協議する内容にあわせて出席する関係者を選定した2つの検討会を並行開催することで、設計段階から関係者間の合意形成を図った事例がある。3) 担当者の説明力不足：担当者が動植物に関する知見を取得せずに事業の説明会を開催すると、保全策の実施内容について地権者の理解を得られないことが多い。4) 担当者の入れ替わりによる保全策の頓挫：事業実施にあたっては、計画に携わる担当者として、設計・施工に携わる担当者とは異なる。そのため、いずれかの担当者の生態系保全に対する関心や意識が乏しいと、様々な保全策が講じられても首尾良く実行されず、結果として無策に終わる場合がある。5) 効果の不明な製品の採用：近年、生態系保全に寄与すると銘打った様々な製品が販売されている。しかしながら、これらの製品のなかにはその効果の不明なものが存在しており、設計担当者がこれら製品の効果の優劣を判断できず、その結果、効果の疑わしい製品ばかりが現場に設置されていることがある。そのため、一部の設計担当者は、日頃から、販売者に対して製品の効果を示すデータの提示を求め、さらにその製品の設置現場を自ら視察するなどして、製品の優劣を判断する能力の向上に努めている。

---

福井県土地改良事業団体連合会(現、岩手県立大学) Iwate Prefectural University

キーワード：農業農村整備、生態系保全、課題

2-2. 施工中における課題

1) 施工業者の理解不足：

事業実施における農村生態系の保全の取組みにおいては、施工中の配慮が重要となる。しかしながら、施工業者の理解不足が一因となって、計画どおりの保全策が実施されていない場合が見受けられる。

2) 移動先・移植先の環境管理の不備：

施工の影響を回避するため、一時的に動植物を移動させたが、その移動先の環境管理が不十分であったため、個体数の減少・消滅を招いている場合がある。

2-3. 施工後における課題

事業完了後の費用の捻出は困難であることが一因となって、実施した保全工法や手法の効果検証ができない場合が多い。ただし、費用負担者の理解を得ることができれば、繰り越しを行うことで、完了年度以降でも費用を工面できる可能性がある。

3. 最後に

頭首工に設置する魚道の改修・新設時の検討会開催に関する知見は、淡水魚類研究者である君塚芳輝氏から助言をいただき、福井県の発注した業務を遂行しながら取得したものである。ここに記して、謝意を表す。

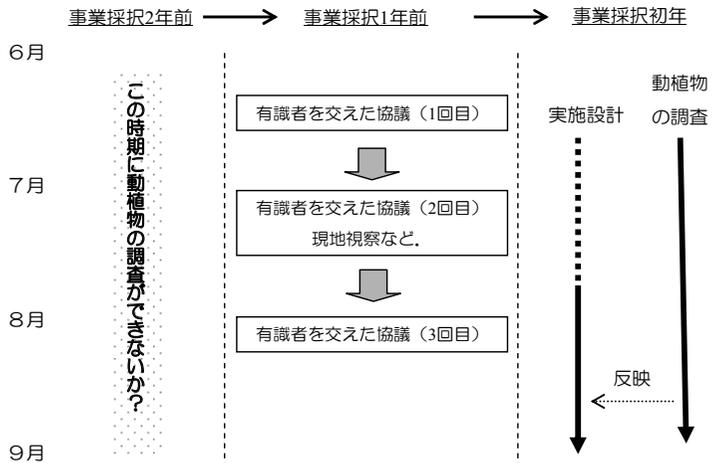


図1 調査実施時期の事例 A Case of investigation period

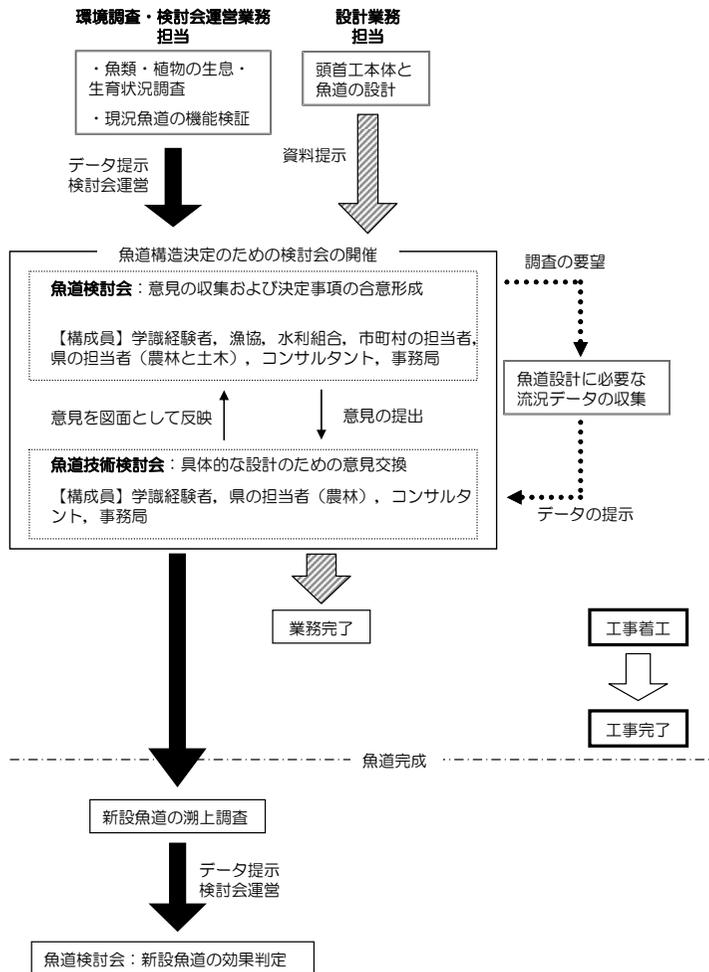


図2 検討会の設置事例 A Case of forming a committee